

自 己 評 価 表

愛媛県立土居高等学校

教育方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。	重点目標	「学校力」の強化と「人間力」の育成 えがお まなびや ～愛顔を育む学舎を目指して～
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学力・進路保障	確かな学力の定着	教育機器を活用したり、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた「分かる授業」の実践に努め、生徒の授業への満足度を80%以上にする。 A：80%以上 B：79%～75% C：74～70% D：69%～65% E：64%以下	A	I C T機器やロイロノートを活用して「分かる授業」を実践した結果、生徒の授業への満足度は90%を超えている。また、適切に授業改善が行われているため、1学期より2学期の方が満足度が上がっている。	次年度から生徒に1人1台タブレットが用意される。確かな学力が定着するよう授業等において積極的にタブレットを活用していく。
		学習習慣の定着を目指し、学年+1時間以上の1日平均家庭学習時間を確保させる指導を行う。 A：90%以上 B：89～70% C：69～50% D：49～40% E：39%以下（目標時間達成率）	D	全校平均約80分であり、1学期より2学期の方が学習時間が減っており、家庭での学習習慣が身に付いている生徒は少ないのが現状である。	考查発表中や考查中は、しっかり学習している生徒も多いので、学習するきっかけ作りが必要。家庭での学習に興味を持って臨めるよう工夫していきたい。
	進路実現	国公立大学、私立大学を含む進学希望者の進学先決定率を100%にする。 A：100% B：99～95% C：94～85% D：84～80% E：79%以下	C	進学先決定率は12月に100%とはなったものの、第一希望に合格できなかった生徒が複数出てしまった。	ロイロノートなどを活用し、登校できなくなっても個別指導を毎日継続して実施できるようにする。
		希望する事業所への就職決定率を100%にする。 A：100% B：99～95% C：94～85% D：84～80% E：79%以下	B	就職決定率は1月に100%となったが、10月に第一希望の内定を得られなかった生徒が複数出てしまった。	面接指導・就職試験に向けての学習を早期に開始し、遅れている生徒への指導をもらさないように実施する。
生徒指導・安全教育	基本的な生活習慣の確立	心身の健康を維持する重要性を継続的に指導しながら、年間出席率97%以上を維持する。 A：97%以上 B：96～90% C：89～80% D：79～70% E：69%以下	A	コロナ禍で年度当初から、休校・学年別登校となり、生活習慣が乱れ生活リズムを崩した生徒が見受けられた。	学校生活に目的を持たせ、基本的な生活習慣を確立させるための努力、工夫が求められる。特に携帯電話の使用に関しては家庭と連携した対策が急務である。
		身だしなみ指導において、年間合格率85%以上を目指すとともに、ルールを遵守する意識やマナーの向上に取り組む。 A：85%以上 B：84～80% C：79～75% D：74～70% E：69%以下	A	1年生の4月合格率46%は校則を十分に理解できていない時期であり低くなっている。これまでの身だしなみ合格率は90%である。1年生は後半90%台まで向上している。1月合格率が3年生79%・2年生89%で年間が一番低くなっている。	理想は学年が進むにつれ合格率を向上させていきたいところだが、1月の合格率が逆に出ているのは重く受け止めたい。特定の生徒であるが、学校生活の中で名札、第一ボタンが外れている・地べたに座っている姿を見かけることがあり、普段からの根気強い指導を心がけたい。
		コミュニケーション能力の向上に向け、積極的に笑顔で挨拶のできる生徒100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～85% D：84～80% E：79%以下	B	生徒用アンケート結果では、先生へのあいさつができていない97%であるが生徒同士では84%に下がっている。	あいさつができる生徒は多くいるが、できない生徒へは、教師側からのあいさつを心がける。
	安全意識の育成	交通マナーの遵守を働きかけ、交通事故防止に向けた取組を年間10件以上行う。 A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5件 E：4件以下	A	県自転車交通マナー向上対策指定校を受け、下校時の交通指導の他、交通安全教室を生徒対象5回、保護者対象に1回実施。学校でサイクリングコースを選定しサイクリングを実施した。全校生徒で土居町交通危険マップを作成し小・中・高校・教育関係機関・駅・役場等に配布できた。	前年度の取り組みを生かし、自転車のみならず生徒が安全に登下校できるよう対策を進めていく。特に年度当初は重点的な強化を図る。

豊かな人間性・個性の伸長	個性の伸長	朝読書を実施するとともに、読書を推奨し、生徒一人当たりの図書貸出冊数を平均3冊以上にする。 <u>ABD（アクティブブックダイアログ）などの行事を主宰し、言語活動の充実を図る。</u> A：3冊以上 B：2.99～2.50冊 C：2.49～1.50冊 D：1.49～1.00冊 E：0.99冊以上	E	新型コロナウイルス感染拡大のため、開館日数も少なく、行事ができなかった。	生徒が読みたいと思える本を購入するなど読書に対する興味関心を深めていきたい。
		充実した学校生活を送らせるために、 <u>部活動加入率を90%以上とする。</u> A：90%以上 B：89～85% C：84～80% D：79～75% E：74%以下	B	運動部・文化部合わせて、年度当初の部活動加入率は86.2%であった。ただ、今年度はコロナの影響で大会等が少なく残念であった。	来年度も各部でリーダーの育成を図り、活発な活動になるようにしたい。
	豊かな人間性・思いやりの心の育成	各生徒が年2回以上ボランティア活動に参加し、地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高める。 A：2回以上 B：1.99～1.90回 C：1.89～1.65回 D：1.64～1.50回 E：1.49回以下	—	今年度はコロナの影響で、しこちゅうボラ7・やまじっこマラソンでの活動にとどまり目標達成には遠く及ばなかった。	地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高めるために、各ボランティア活動への参加を呼びかけたい。
		相手を尊重する、いじめ問題の防止に向けた取組を年間10件以上行う。 A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5～4件 E：3件以下	A	実態把握のためのアンケートを実施したり、いじめ防止委員会を開催して、いじめに関する事例研究や情報共有に努めた。また、生徒に対して講話等を通じていじめは絶対に許されない行為であることを伝えている。	県の「いじめSTOP！愛顔あふれるえひめフォーラム」の取組や研修内容を共有するなど、いじめの起きない学校づくりを推進していきたい。
地域との連携・学校の魅力化	保護者・地域との連携	PTA関連行事（公開授業、講演会を含む）への出席率30%以上を目指す。 A：30%以上 B：29～25% C：24～20% D：19～15% E：14%以下	—	1学期は臨時休業があり、2学期以降も新型コロナウイルス感染症対策のため、PTAおよび同窓会行事のほとんどが中止となった。実施した校内行事は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて行った。	新型コロナウイルス感染症への対策をした上で、可能な範囲でPTAおよび同窓会行事を実施したい。
		保護者、地域への教育活動の公開日を年間15日以上確保するとともに、来校者数の増加を図る。 A：15日以上 B：14～12日 C：11～8日 D：7～5日 E：4日以下	B	1学期は臨時休業があり、2学期以降も新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していたPTA行事や同窓会行事で実施できない行事があった。	新型コロナウイルス感染症への対応をした上で、可能な範囲で公開に努める。
	魅力ある学校づくり	学校公式ホームページの内容を毎日更新するなど、学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信する。また、新聞社、地元ケーブルテレビ等にも情報発信をする。	C	学校ホームページの更新については、1月末までの開校日数152日に対して更新回数も152回と目標を達成することができた。また、マチコミやロイロノートを活用し情報発信することができた。新聞社や地元ケーブルテレビ等への情報発信も行ったが、コロナ禍で中止・縮小する行事も多かった。	ホームページの内容について、特に中学生に本校の魅力が伝わるように工夫していきたい。新聞社、地元ケーブルテレビ等については次年度も情報発信に努めていきたい。
		地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間10件以上確保するなど、連携に努める。A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5～4件 E：3件以下 <u>農産物販売実習を体験することで、地域の方々との交流をしながら自己肯定感を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。</u>	D	本年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、学校自体も休校措置が取られ、1学期中の交流行事がすべて中止となった。また、2学期に入っても相手先のご都合もあり、キャンセルとなった事例がかなりあり、わずか5件の実施となった。しかしながら、生徒たちは熱心に交流をし、当初の目的は最低限達成できたと思う。	新型コロナウイルス感染症さえ収束の向かってくれれば安心して実施できる。それに向けて、できる限りの準備を進めていこうと思う。
現職教育	教職員の資質向上	教職員の資質能力の向上を図るため、各教員が3年間に1回は教科の研究授業を実施する。	A	計画通り、実施することができた。	更に、多くの教員の授業を互いに見ることができるよう、授業相互参観などを取り入れたい。
		<u>ICTを活用した授業研究や、実践に結びつくような教員研修を実施する。</u>	A	ロイロノートやzoomの研修を何度も行い、個々の教員のICT活用能力を伸ばすことができた。	実用できるような環境と、個々の教員の活用能力を更に充実させていきたい。
業務改善	適切な勤務時間	校務支援システムを活用し業務の効率化を図ることで、休憩時間を確保する一方で、時間外在校時間を減少させる。	C	休憩時間の確保はできているが、担当する校務により、一部の教職員に一定期間負担が大きくなることがあった。	校務支援システムはスムーズに運用する準備が整った。一部の教職員に負担が大きくなるように管理職、課長が職務の割振りを考慮する必要がある。
	職場環境の整備	衛生委員会を充実させ、健康講座や健康相談を定期的実施する。	B	衛生委員会を定期的開催した。健康管理医による健康相談を3名の教職員に実施した。	ストレスチェックの結果や「健康相談だより」等を利用し教職員のメンタルヘルスケアの向上に努めていく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。